

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質                    (該当分類に○を付記)		
技術名称	RBPウォール工法	担当部署	太洋基礎工業(株)九州支店内
NETIS登録番号	QS-160035-A	担当者	石渡裕一郎
社名等	RBPウォール工法協会	電話番号	080-3990-3674
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>RBPウォール工法は、切土法面を補強しながら法面上方より切り下げていく、逆巻き工法です。従来の逆巻き工法は、コンクリートパネルと地山に挿入されたアンカー補強鉄筋との2部材の組合せによって、切土補強土工が構成されていました。RBPウォール工法は、従来の2部材に加え、コンクリートパネルどうしを上下方向に第3の部材であるPC鋼棒で緊張連結することにより、切土法面全体の安定性を高める工法です。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>RBPウォール工法は、現況の地山を上方よりカットして急勾配法面を形成する逆巻き工法です。カットした法面はリバースボルトパネル(コンクリートパネル)を補強鉄筋(アンカー)で地山に固定していきます。リバースボルトパネルはPC鋼棒で各段毎に上下連結されるため、裏込めモルタル充填までの間、片持ち梁状態で保持されています。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>PC鋼棒連結によるプレストレス効果により、逆巻き工法のみならず、上方への延伸(順巻き工法)も施工可能です。また、掘削する地山の地盤条件によっては、各段毎の1段施工ではなく、2段施工も可能であり工期の短縮が図れます。安全性においては、設置するリバースボルトパネルは、前段のアンカー補強鉄筋で地山に固定されているリバースボルトパネルに、即座にPC鋼棒で緊張連結されるため、施工性に優れ、作業の安全性が確保されます。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>&lt;適用可能な範囲&gt; ・切土法面勾配 1:0.1~1:0.5    ・法面高さ H=20m以下    ・アンカー補強鉄筋長は10m以下を標準とするが地質等に応じて延長できる                  &lt;特に効果の高い適用範囲&gt; ・用地制限のある場所    ・順巻きのできない箇所</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 6 件 (九州 5件、九州以外 1件 )                  自治体 27 件 (九州 21件、九州以外 6件 )                  民間 5 件 (九州 3件、九州以外 2件 )</p>		

## 6. 施工手順

基準段目(定規パネルの設置)



1

1の作業ののち、2～5作業を繰り返し施工し最下段までのパネル設置を行います。



完成

2段目パネル背面排水材設置状況



2

剛孔→補強鉄筋挿入



5

下段パネル設置状況



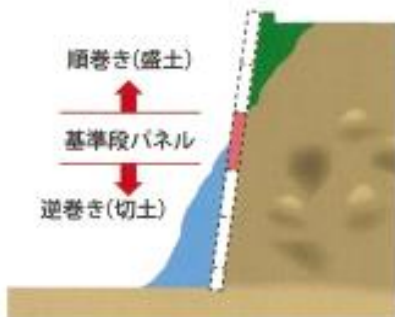
3

裏込め注入グラウト→補強鉄筋の緊張定着



4

順巻き(盛土)  
↑  
基準段パネル  
↓  
逆巻き(切土)



PC鋼棒による上下連結

